



がんばろう！東北

■東北地方整備局情報提供

第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム シンポジウム『東日本大震災の経験と教訓を世界へ』を開催しました

企画部 防災課

～はじめに～

第3回国連防災世界会議が開催され、東北地方整備局も東日本大震災の経験と教訓、日頃の防災への取組など世界に発信することを目的としてシンポジウムや展示を行いました。

今回は、その開催内容について紹介をします。

●第3回国連防災世界会議

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回(1994年、於：横浜)、第2回(2005年、於：神戸)ともに、日本で開催されています。

第3回の国連防災世界会議は、平成27年3月14日～18日に仙台市を中心に開催されました。

会議は大きくわけて国連主催の「本体会議」と、公募により募集した様々な団体が主催する「パブリックフォーラム」に分かれて行われ、期間中は、国内外から多くの方が来仙されました。

※全てのシンポジウム・屋内外展示に参加・来場した方は、15万6千人を超えました！(実行委員会3月19日発表：暫定値)



＜2月1日開催イベント＞
会議本番の成功を確信するかのような盛り上がりでした！

●シンポジウム『東日本大震災の経験と教訓を世界へ』

本シンポジウムは、東北地方整備局主催のパブリックフォーラムとして、3月16日(月)14時45分よりTKPガーデンシティ仙台で開催しました。

当日は、300人規模の会場に350名を超える方が来場され、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

また、国外の方の聴講もあり、改めて本テーマにおける関心の高さを実感しました。

はじめに、主催者を代表して縄田正 東北地方整備局長が「防災・減災で最も大切なのは、災害で経験したことから教訓を引出し、その教訓を共有し、後生に伝承すること。本シンポジウムを通じて、我々がさらに備えを身につけ、応用できる職員となるよう、そして世界各国の自然災害による被害の軽減に少しでも役立つことがあれば」と挨拶いたしました。



＜縄田局長挨拶＞

第1部では、福島原子力発電所での事故検証委員会の委員長を務められ、また「未曾有と想定外—東日本大震災に学ぶ」の著者でもある、東京大学名誉教授・株式会社畑村創造工学研究所代表の畑村洋太郎氏の基調講演、第2部は東日本大震災に様々な立場でかかわったパネラーによるパネルディスカッションを行い

- ・災害は必ず起きるという前提で「絶対安全はあり得ない」
 - ・大事なことは、主体的・能動的に行動できる個人を作ること
- と、来場者へ発信しました。

※本シンポジウムはインターネットサイト「USTREAM（ユー 스트リーム）」にて生配信されました。配信は4月9日で終了しております。



<畑村洋太郎氏基調講演>



<シンポジウム状況：満員御礼！>

●展示

<屋内展示>

屋内展示はAER5Fにて、3月14日～18日の会議期間中を通して行い、『MISSION「忘れない」「守りたい」災害パネル展』として、東日本大震災での活動などのパネル展示を行いました。

また、震災品の展示やGPS波浪計の模型デモなどもあわせて行い、来場者からは積極的に質問が出ていました。

震災から4年が経過しましたが、当時の記憶を風化させないことの重要性を改めて実感しました。



<震災展示品>



<外国の方からの質問>

会場内には通訳の方が常駐「助けて～」



<GPS波浪計デモ>

<屋外展示>

屋外展示は、3月14日と15日の2日間、仙台市役所前にて、災害対策車両（排水ポンプ車と照明車）の展示を行いました。

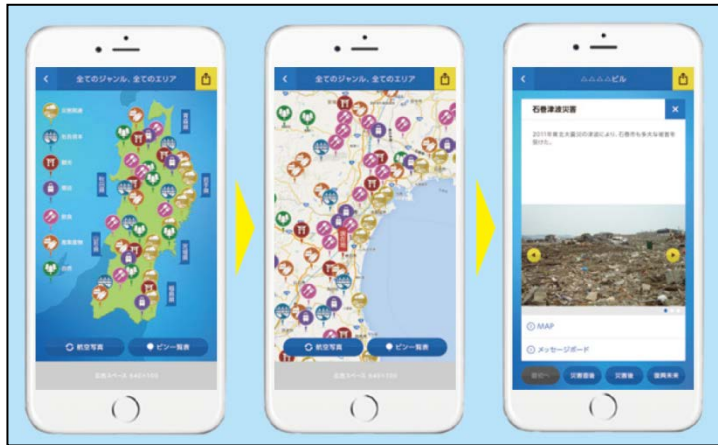
土日のみの開催でしたが、親子連れでの来場が目立ち、普段見慣れない車両について質問したり、記念撮影を行っていました。

ちなみに、周りは自衛隊・警察・水道などの車両展示も行ってたことから、さながら『特殊車両のお祭り』のようでした。



●スマートフォンアプリ「ガイド東北」

東北を訪れた方々に、地域の情報を提供するスマートフォンアプリ「ガイド東北」を公開しました。「ガイド東北」は、東北に関する主な機関が一体となって、東日本大震災の被災から復興までの実像を伝えるとともに、東北全体の賑わいを取り戻し、更なる活性化を図ることを目的としています。



「ガイド東北」画面イメージ



「ガイド東北」はこちらのQRコードからダウンロードして下さい

●さいごに

第3回国連防災世界会議では、多方面の方々にシンポジウムの周知などご協力を頂き、東北地方整備局として発信したかった内容が広く国内外の方々に伝わったと思います。この場を借りて感謝申し上げますとともに、いつ・どこで起こるか分からない災害に対して、関係機関、また住民の方々が改めて「防災・減災」の意識を共有頂き、備えの一助となってくれたのではと感じております。

東北地方整備局 企画部 防災課
計画係長 間山隆之

平成26年度第4四半期 防災エキスパート活動報告

平常時

県別	活動内容	活動場所 (事務所・出張所名)	活動年月日	出勤数 (人)	備考
青森	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	1	
				1	
岩手	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	1	
	北上川上流総合水防演習打合せ	岩手河川国道事務所	平成27年 2月 9日	2	
				3	
仙台	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	1	
	震災取材案内のための現地調査	仙台平野全域	平成27年 2月 5日 2月 6日	1 1	
				3	
秋田	子吉川危機管理演習事前説明会	秋田河川国道事務所	平成27年 1月 8日	2	
	子吉川危機管理演習	秋田河川国道事務所	平成27年1月 15日	2	
	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	1	
	米代川流域内合同危機管理演習	能代河川国道事務所	平成27年2月13日	2	
	雄物川上流維持管理計画検討会	湯沢河川国道事務所	平成27年3月17日	3	
				10	
山形	堤防決壊時の緊急対策シミュレーション	新庄河川事務所管内	平成27年1月30日	3	
	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	2	
				5	
福島	防災セミナー	公益社団法人 全国防災協会	平成27年 2月 5日	1	
				1	
平常時活動 合 計				延べ 23 人・日	



立谷沢川流域大規模土砂災害危機管理演習
【防災エキスパート 情報把握】
(新庄河川事務所・1/30)



立谷沢川流域大規模土砂災害危機管理演習
【防災エキスパート 復旧対策の指導】
(新庄河川事務所・1/30)



米代川流域内合同危機管理演習
(能代河川国道事務所・2/13)

平成26年度防災エキスパート支援活動実績は、平常時 278名、災害時 6名となりました。昨年より平常時の活動として45人増、災害時出動は、10人減となりました。

新規登録状況

平成27年2月1日付けで登録いただいた新会員をご紹介します。平成27年3月31日現在、登録会員数は425名となりました。

2月1日登録 2名		(敬称略・五十音順)
氏名	登録県	登録事務所・出張所等
新田 哲雄	宮城	東北技術事務所、仙台河川国道事務所
岩淵 文男	福島	福島河川国道事務所、伏黒出張所、吾妻山山系砂防出張所

国連防災世界会議

3月14日(土)～18日(水)の間、仙台市において第3回国連防災世界会議が開催されました。この間、本体会議のほか、パブリック・フォーラム〔関連事業〕と関連事業が各地で開催されました。東北地方整備局と東北地域づくり協会の取り組み状況を簡単に紹介します。

<東北地方整備局>

〔パブリック・フォーラム〕 東日本大震災の経験と教訓を世界へ

主催 国土交通省東北地方整備局（企画部防災課）
（協賛：東北地域づくり協会）

日時 3月16日（月） 14時45分～16時50分
場所 TKPガーデンシティ仙台 ホールA(AER 21F)

概要 ① 基調講演「東日本大震災に学ぶ」 畑村洋太郎 氏（東京大学名誉教授）
② パネルディスカッション（野田釜石市長、渥美副局長 ほか）
※ 3/14～3/18の間、AER5Fにて屋内展示開催（「ガイド東北」ほか）
※ 3/14～3/15の間、仙台市役所前広場にて災害対策車両を展示

〔パブリック・フォーラム〕 東日本大震災における復興祈念公園を考えるシンポジウム

主催 国土交通省東北地方整備局（建政部都市・住宅整備課）

日時 3月14日（土） 17時20分～19時40分
場所 仙台市シルバーセンター 7階 第1研修室

概要 ① 基調講演「石巻市南浜地区における復興祈念公園について」、「陸前高田市高田松原地区における復興祈念公園について」
② パネルディスカッション「復興祈念公園の意義と目指すべき方向性について」

<東北地域づくり協会>

被災地ともに考える防災展

主催 被災地ともに考える防災展 実行委員会
（東北大学災害科学国際研究所／河北新報社／東北地域づくり協会）

日時 3月14日（土）～ 16日（月）
場所 ぶらんどーむ一番町アーケード（フォーラス前～大内屋前）

参加者数（推計）
延べ約27,000人

概要 ① 津波被災前後航空写真パネル、河北新報紙面、衛星画像（床敷・3D）等展示
② 東北大学及び多賀城高校等取組み紹介
③ 防災コンテスト出展作品展示
④ ステージイベント（詩の朗読、南三陸町震災語り部・小中学生体験談 ほか）

〔パブリック・フォーラム〕 重層的な津波避難対策の展開 シンポジウム

主催 仙台市／「カケアガレ！日本」企画委員会（東北大学災害科学国際研究所、河北新報社ほか）／東北地域づくり協会

日時 3月16日（月） 10時00分～11時45分
場所 仙台市情報産業プラザ6Fセミナールーム(2)

参加者数 約110人

概要 ① 東日本大震災の教訓（映像資料）
② 事例紹介3件（緊急津波避難情報システム紹介 ほか）
③ 総括（宮城学院女子大学 平川学長）
※ 3/14～3/18の間、せんだいメディアテークにて防災展を同時開催

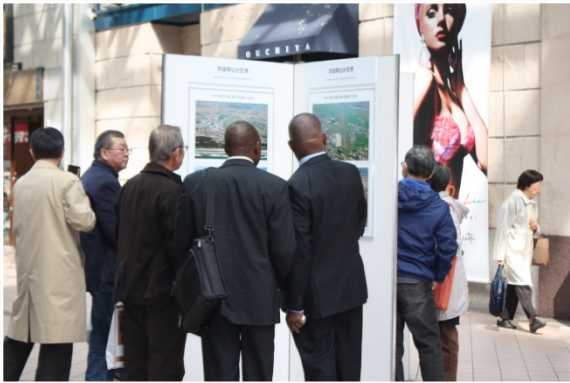
〔その他〕 海外の方への説明（仙台市・名取市）

主催 仙台市／「カケアガレ！日本」企画委員会（東北大学災害科学国際研究所、河北新報社ほか）／東北地域づくり協会

日時 3月14日（土）～ 16日（月）
場所 ※ 仙台市管内、名取市管内

概要 津波被災前後及び3年後航空写真パネル展示、震災対応パネル等説明
● 仙台市津波避難タワー（中野五丁目） ※ 参加者数 約80人
● メイプル館（名取市閑上・ゆりあげ港朝市） ※ 参加者数 約100人
● 名取市役所

～ 被災地とともに考える防災展 ～



津波被災前後航空写真パネル（海外の方による見学）



震災語り部（伊藤さん）



会場全景



河北新報（震災当時紙面）



南三陸町の子供たちによる体験発表



詩の朗読とギター演奏



だいち衛星画像（床敷：青森県八戸市～福島県わき市）

〔パブリック・フォーラム〕
 ～ 重層的な津波避難対策の展開 シンポジウム ～



緊急津波避難情報システム紹介（堀 先生）



今村先生挨拶



会場全体



総括（平川学長）

情報提供 ～災害情報～

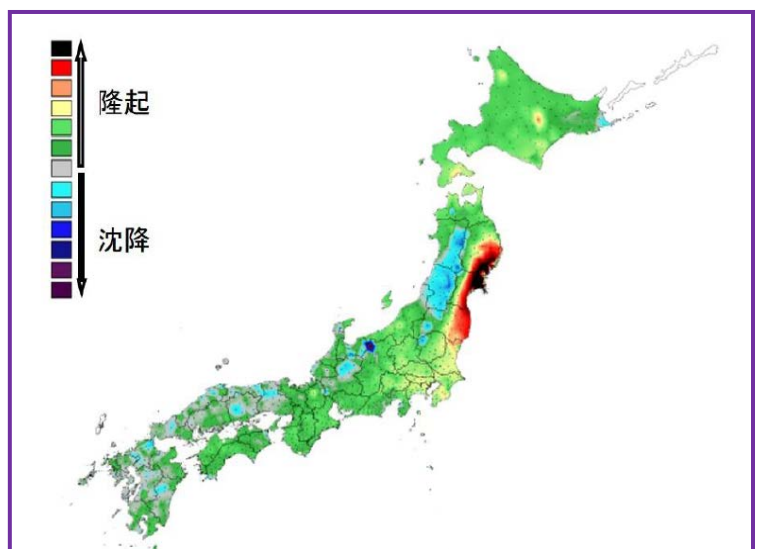
村井俊治氏（東京大学名誉教授）メルマガより東北版概要

■奥羽山脈警戒ゾーン

東北の要注意ゾーンとして、東北地方の中央部を青森県から栃木県にかけて南北に走る「奥羽山脈エリア」があげられております。

東日本大震災時は、東北地方の太平洋側が大きく沈降していましたが、今は一転して隆起を始めており、その反動で奥羽山脈周辺と日本海側の沈降が大きくなっています。これまでの村井氏の調査の経験上、沈降状態にある地点のほうが地震発生時の震度が大きく注意が必要との事で警戒しております。

【隆起沈降図】



事務局より

【活動報告について】

- 活動後は、報告書の提出をお願いいたします。（記録として、残すために支援内容が分かるように写真を添付していただき、指導事項等内容もご記入下さい。）
- 活動費につきましては、領収書の添付により、事務局にて確認させていただきます。
【ガソリン代、高速料金、宿泊、食事等】

【情報】

- 活動の要請は、各事務所から支所宛に行い、調整の上、エキスパートの方に出動要請を行います。
- 平常時の活動費等は、活動内容及び社会情勢等により見直しを行い、平成27年4月1日から適用させていただきます。（各支所に通知済）
- 防災エキスパートだよりを冊子として印刷しました（発行時から現在まで）ので、研修時に配布させていただきます。

編集 後記

昨年度は、広島の集中豪雨被害、御嶽山をはじめとする火山の噴火、台風など自然災害が多発した一年でした。幸いにも東北地方は、大きな災害は免れましたが、台風19号の際には6名の方に出動いただいております。災害の有無に関わらず、平常時の活動にも多くの方に参加していただき、ご活躍いただいております。

今年度も引き続き、防災エキスパートの皆さまのご協力をお願いいたします。

防災エキスパート事務局

（東北地域づくり協会 地域事業部 中村・菅原）

TEL : 022-268-4711 / FAX : 022-211-9534

E-mail : michinoku@kyokai.or.jp

※ 事務局 E-mailアドレス を変更しております